

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503908		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花 上野幌館		
所在地	札幌市厚別区上野幌1条4丁目2番1号		
自己評価作成日	平成27年1月3日	評価結果市町村受理日	平成27年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=rue&amp;JigyosyoCd=0170503908-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=rue&amp;JigyosyoCd=0170503908-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階ユニットは、1年間生活していく中で散歩や季節ごとの行事を通じ、時間の流れや季節を感じ日常を離れ、メリハリのある生活をして頂けるよう季節の行事を企画し、楽しみのある生活が出来るよう支援しています。  
特に冬季以外の年間行事は、外に出ることを主眼に季節を感じさわやかな北海道を満喫できるよう、春にはお弁当を持ってお花見、6月には恒例の小樽水族館見学、7月は1階2階合同バーベキュー大会、8月町内会夏祭りなど活動的に過ごせるような行事を行っています。  
また敬老会クリスマス会などの室内行事の時は、女性の方にはお化粧を楽しんでいただき、男性の方にはスーツにネクタイをしていただき、おしゃれをして日常を離れたウキウキした気分で入居者様職員一緒になって楽しんでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 2 月 4 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とケア理念を毎朝職員全員で唱和し、理念を共有し実践しています。またケア理念より一つ選び介護日誌に記載し、一日の終わりに達成度を記入し確認しています。職員の名札の裏にも理念を記載し携行している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りにはバザーを出店し、入居者が売り子として参加したり、また散歩時にはご近所の方とあいさつを交わし、花壇を見せて頂いたり、お花を頂いたり交流をしている。新札幌幼稚園との交流会も定期的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では介護の理解や支援の方法を、具体的にパワーポイントやスライドショーなどで紹介したり、歯科医師・訪問マッサージ等の専門職を招いたり、理解を深める一助としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催し、ご家族様、町内会、民生委員、地域包括支援センター、消防団などの参加があり、特にご家族様とは入居者の近況報告のほか、口腔ケアや機能訓練など、ケアの実例を紹介し具体的な意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	厚別区の担当者と連絡を取り介護保険について相談したり協力関係を築くようにしている。厚別区管理者連絡会に積極的にかかわり、役員会などを通じ市や区の担当者と協力関係を持てるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを理解し、全社員が社内研修を受け、カンファレンスでも定期的に話し合いを持ち、身体拘束のないケアを実践している。職員は外部研修に参加し、意識を高め身体拘束のないケアを実践している。玄関の施錠は防犯のため夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や外部研修に参加し積極的に学ぶ機会を持っている。研修に行った職員は他職員に伝達講習を行う事や、カンファレンス、申し送りなどで報告・連絡・相談し、お互い話し合える環境作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護の研修などに参加し学ぶ機会を持っており、必要な場合は関係者と話し合い対応が出来るようにしている。ご家族様から相談があった場合や、入居相談時に必要があれば支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は重要事項の説明を本社職員と管理者がともに行い、介護計画の説明については管理者または計画作成担当が行い、入居者様やご家族様の納得が頂けるまで説明している。また契約後もいつでも相談にのっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で、ご家族様・入居者様から介護や職員の対応等に関する要望や意見をお聞きし、議事録の公表などにより運営に反映させている。またご家族様が訪問された折に、介護記録などをご覧いただき、その時々のご意見をお聞きし運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善点や気づいた事など職員の意見や提案は、管理者が随時聞き取り、本社と相談しながら改善を図っている。会社として詳細な検討が必要な提案・意見などは、管理者会議やワーキング委員会などを通じ、代表者に提案し、意見を聞き取り運営に反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力や実績、勤務状況に応じて、公平な評価を行い、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。働く人に合わせた勤務体制が取れる、短時間勤務の介護アシスタントや調理担当など、フレキシブルに働けるよう労働環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修には全職員が均等に何らかの研修に参加できるようにしている。また1年以上の勤務者には初任者研修への参加を促したり、ケアマネジャーの研修会には勤務扱いで研修に参加させるなど、資格取得とレベルアップが図られよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者、職員に札幌市や厚別区及び医療関係などとの研修会・勉強会に参加を促し、他施設の管理者や職員との意見交換や交流の場を設け、サービスの向上へ結びつけていく努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様から人となり既往歴などを十分に伺い、本人の不安や困っている事などを、職員間で情報の共有を図り、笑顔で接し困った事に対応出来る関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や面談などで、緊急時の対応や日常の医療・認知症ケアに対する疑問点や、将来起こりうる看取りへの不安など積極的に、何でも話し合える環境づくりに努めている。また定期的にご家族へ状況説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と密に連絡を取り状態を報告し、日常生活になじむまでの介護の仕方や希望を話し合い、初めてのホーム生活に対する不安を取り除くよう努めている。本人、ご家族との話し合いや必要に応じて、医療やマッサージなどの、外部サービス利用も含めたアドバイスや対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人の出来ること出来ないこと理解し、若い男性職員などには調理などの場面で、経験に基づいた知恵を頂いたり、暮らしを共にする者同士としてお互いを認め合い役割分担をして、対等に楽しく共同生活が出来るような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームによるケアだけでなく、ご家族様と入居者様の一層の絆を深めるため、季節ごとのご家族様との外出や外食、衣替えなど、ご本人と一緒に過ごせる環境作を積極的に行い、ご家族様とともに支え合える関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お中元お歳暮などのやり取りや、年賀状の作成などのお手伝いなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。ご家族やお友達からの電話等もスムーズに取り次げるよう職員間で配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が和やかに関わり合えるよう、会話の中に職員が入り会話の橋渡しをしたり、ゲームなどではお互いが補え合えるような入居者様同士のチームを作ったり、ハンデを感じさせない雰囲気づくりに努め支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様の体調変化の相談を受け、いらしたときの対処方法などを、お教えする対応をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的にご本人に過ごし方の希望を伺っている。また希望を伝えることが困難な場合は、家族様と相談したり、日ごろの言動を職員が共有し以降の把握に努め本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を参考に家族様のお話ご本人との会話等を通じ、購読している新聞・好きな歌・趣味などの嗜好、これまでのサービス内容を把握し、馴染みの暮らしや環境が継続出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調チェック表や申し送り・連絡ノートなどで入居者様の心身状態を把握し、一日の過ごし方の参考にしている。個々の状態や能力に応じ輪投げやボウリングで活動的に、塗り絵やパズルで静かに過ごすなど状態に応じ生活出来るよう配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで毎月のモニタリング、3か月毎の評価を計画作成者と職員間で行っている。また主治医・訪問看護師・外部サービス関係者などから提案やアドバイスを受け、ご家族の要望を反映させ、関わる人達皆で援助出来る介護計画が作成できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日誌の個別記録の他に、連絡ノートを活用し日々の変化やその対応について記録し、リアルタイムで情報共有し、即座に対応出来るようにしている。その結果はモニタリングやアセスメントに反映させ介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のその時々ニーズに応じ、カラオケサークルへの送迎や、気分転換で喫茶店でコーヒーを飲んだり、業務の流れを工夫し日常生活にとらわれないサービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のレストランや商業施設・公共施設、などを利用し、豊かで変化のある暮らしが出来る様支援している。設備や内容などの下見と、担当者との十分な打ち合わせを行い、安全に楽しく利用できるよう配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望に添えるよう、かかりつけ医との連携と調整を行い、24時間適切な医療を受けられるよう支援している。ご家族様、かかりつけ医と連携しながら、専門医への受診や調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に、入居者様の日々の様子や健康状態などを伝え、情報交換を行いアドバイスを受け、適切な医療や診療が受けられるよう、職員間で情報共有し支援している。その他必要に応じ訪問看護師に相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはADLや既往症・経過などを書面により正確に伝え、医療関係者やケースワーカーなどと情報交換や相談を行い、また本社看護師と連携し安心して治療が受けられるよう支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応について意向書でご本人やご家族様のお考えを頂いている。終末期に向けては随時意向の再確認を行い、医療関係者と本社看護師を交えホームの可能な支援を明確にし介護計画を立て、医療・介護職員が連携しチームで支えている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人研修、職員研修で緊急時マニュアルの学習を行い、また消防の救命講習・AED使用講習などに参加し緊急時の対応訓練を行っている。緊急時の連絡方法や手順について、カンファレンスで確認しスタッフルームに掲示している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員による防火防災訓練を年4回、内2回は消防署・消防団・町内会参加による訓練を行っている。町内会、民生委員など地域の方々には、緊急時自動通報の登録に協力頂き、避難の協力を頂く体制を取っている。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシーや接遇の研修を受け、尊厳を理解し、人権を尊重した対応に努めている。カンファレンスなどで言葉遣いや対応について実例を挙げ話し合いをしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな洋服の選択や外出時にお好きなものを選んで頂いたり、自分の思いを表わせるような働きかけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の状態に合わせて起床時間や食事時間、食事にかかる時間など柔軟に対応している。テレビを見たり編み物をしたり、アクティビティなどもその方の状態や能力に合わせ、希望に沿った過ごし方が出来るよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に似合う洋服のコーディネートを考えたり、また月に一度の理美容の日には、その方に好みや似合う髪型が出来るようアドバイスをしている。特に行事参加時には、女性にお化粧等をして楽しんで頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の味付けや味見、下ごしらえや後片付け（もやしやの根とりや大根おろし、食器拭きやお盆拭きなど）能力に合わせたお手伝いを、職員と楽しく会話したり音楽を聴きながら楽しみながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量の確認を毎回行い量やバランスの変化を把握している。個別対応が必要な方には、医療関係者、栄養士と相談し量やバランス、形状など状態に応じた対応している。盛り付けに工夫し、見た目にも美味しく召し上がられる様配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導を受け、毎食後職員が歯ブラシやスポンジブラシ、歯間ブラシなどを使い、その方の能力や口腔状態に合った口腔ケアで支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェック表をもとに個別の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できることを基本に支援している。また、日中や夜間、体調などに合わせてその日に使用するパットの種類や量を工夫し、パットの使用量削減にも取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘運動や歩行運動を促したり、排便時の腹部マッサージ、ヨーグルトや牛乳などの飲食物の工夫、排泄時間やパターンの把握などにより薬に頼らない排泄に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿うよう時間や日にちを調整しながら入浴をして頂いている。入浴時にはリラックスして入浴が楽しめるよう入浴剤を使用したり、温度や入浴時間など好みに合わせ個別対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はお昼寝をして頂いたり、夜はテレビの好きな番組をご覧いただいたり、不安を訴える入居者様には職員がお話し相手になり、落ち着いてから就寝されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師から説明を受け診療記録に記入し、効能・用法・容量・副作用などを全職員が薬状で確認し、情報共有し薬の内容理解に努めています。症状に変化があれば医師に相談し、処方変更があれば、口頭と連絡ノートで全職員に伝達しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の様子や生活歴ご家族様のお話などを参考に、一人ひとりの力に合わせ役割や趣味、嗜好を検討し、張り合いのある楽しい暮らしが出来るよう支援している。（カラオケ、編み物、好きなTVの録画、食器拭き、調理手伝い、パズル、読書など）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には交代で公園に散歩に出かけ、近所の方との交流を楽しんでいる。また近所のスーパーなどにおやつの買い出しを兼ねショッピングに出掛けている。冬季以外は出来るだけ外出行事や散歩などで外に出るよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様は普段お金を所持していませんが、職員との買い物や夏祭りなど、機会をとらえてお金を持ってお買い物ができるよう支援している。ご自分のお金でお中元お歳暮を選び贈られている方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に合わせて電話や手紙のやり取りができるよう支援している。希望がある方には年賀状の作成や代行をして援助している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と共に季節ごとの作品を作り掲示をしたりまた、行事等の写真を飾りアットホームな雰囲気演出するよう努めている。体調を崩さぬよう各居室、リビング等の湿度、温度管理に注意をはらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が居心地良く過ごせるよう、気の合った方との座席やテーブルの配置などを工夫している。その時の状況や雰囲気により、ソファでくつろがれたり、お一人で読書などに集中できるよう座席を移動して差し上げたり、リラックスできるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人にお話を伺い、使い慣れたなじみの椅子や家具、家族写真などを置き自分の居心地の良い空間を作って頂けるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の設備の方向や、本人の名前などを大きく分りやすく表示している。入居者様の移動の安全のため家具や備品の配置などに特に注意をはらっている。		